

各位

党派を超えて国家的課題を追求する

公益財団法人協和協会 時代を刷新する会

両団体会長代行 岸 信 夫
両団体理事長 半 田 晴 久
交通部会長 松 本 治 男
専務理事 清 原 淳 平

交通部会のお知らせ(第258回)

日時 平成30年2月27日(火) 午後1時半～3時半

場所 参議院議員会館 地下1階 B105会議室

千代田区永田町2-1-1

◆国会議事堂前駅(丸の内線・南北線)①番出口より下車5分、永田町駅(有楽町線・半蔵門線)①番出口より下車2分。当日、午後1時より、議員会館玄関にて、通行証を差し上げます。その時刻前に到着された方は、恐縮ですが、受付脇のロビーにてお待ち下さい。会議開始後にお越しの方は、受付に「B105会議室に行きたい」旨お伝え下されば、お迎えに参ります。

議題 1、最近の交通情勢について

挨拶 松本治男 交通部会長(元近畿管区警察局長)

2、平成29年における交通死亡事故の特徴等について

3、交通事故統計(2月26日まで)

解説 警察庁交通企画課 落合大地課長補佐(警視)

報告

去る1月25日開催の第257回交通部会は、松本治男部会長が議長を務め行われました。

まず、松本部会長より、「本年に期待する交通事故対策」と題して開会挨拶がありました。昨年の交通事故死者数は、統計史上最少を記録し、交通行政に携わってきた者として、誠に喜ばしい結果となった。今年は、自動運転の実用化が本格化する変革の年になるであろう。欧州で先頭を行くのはドイツで、すでに緊急時以外は自動走行するレベル3の高速道路での走行試験まで進んでいる。残る課題は隊列走行である。

次に、警察庁交通局交通企画課 落合大地課長補佐(警視)より、

「平成29年の交通事故発生状況」について解説がありました。平成29年中の交通事故死者数は、3694人で昨年比210人の減少。うち高齢者は3694人で118人減少し、上がり続けていた高齢者の構成比も0.1%低下した。本年は、現時点で死者数251人と前年比から24人増加している。第十次交通安全基本計画の目標値は2500人という厳しい数字ではあるが、本年も事故死者数減少に向けて対策に取り組んでいく。

次に、「運転免許の自主返納制度等に関する世論調査」について解説がありました。内閣府が約2千人を対象に自主返納制度に関して世論調査をした結果、自主返納制度そのものについては、95%程度に認知されているが、運転免許証に代わる運転経歴証明書の認知度は約50%強、運転適性相談の認知度は25%程度であった。免許返納の動機は、「自分で身体機能の低下を感じた」が75%と高く、「家族や医師など周囲から止められた」は、高齢者の間では25%程度であった。返納するつもりはないと回答した層も10%いる。

この後、委員一同にて盛んな意見交換があり、以下のような意見が出ました。◎以前テレビで民間人がタクシー業者の代行を安価で行う地域が特集され、一様に好評だったという。全国展開はタクシー業者の反対もあって難しいだろうが、こうした取り組みが増えていけばいいと思う。◎インフラ維持のため、高齢者の定住地を集約し、行動範囲を狭めて車の需要を減らせばよいという意見もあったが、自分の住む土地を離れたくないという意見もあった。◎運転経歴証明書が免許証の代わりを果たすことが民間レベルまでは浸透しきれていないという実態もあった。◎独居高齢者の情報源は主として役所の訪問である。振り込め詐欺のように役所と連携して免許返納の情報を知らせていただければ助かる、などの意見が出ました。

★ 資料代 会員500円
次回、2月27日(火)の交通部会(参)に

出・欠 (いずれかに○印)

事務局宛 F A X 03-3507-8587

御芳名 _____

貴方様の F A X _____ 電話 _____

テロ対策への警備からの要請上、会員に限ります。
非会員で参加希望者は、2日前までに履歴書をご提出下さい。
(その際の会費は二千元となります。)

HP <http://www.jidaisassin.jp>

Eメール kiyohara@jidaisassin.jp